

1 分析結果

(1) 質問項目について

- 今年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症対策が求められ、学校生活における安心・安全により丁寧に対応してきたことから、質問項目も変更せず実施した。また、昨年度新設した本校で推進している「ICT教育」についての質問項目も継続して実施した。
- これまで学校評価は、保護者・教員アンケートと学部・校務分掌部の自己評価を行い、反省と改善を検討してきた。今年度も、保護者アンケートの内容と同じものを教員アンケートでも実施し、保護者と教員の意識のずれを確認できるようにした。

(2) 保護者アンケート

ア 本校について

- 全ての質問項目において「ア よくあてはまる」、「イ ややあてはまる」が一部を除き100%を達成しており、本校の教育目標と重点目標について、保護者から概ね高い評価を得られた。
- 「ICT教育」について保護者の期待度も高く、本校では概ね活用が図られていることが理解されていることが分かる。特に、欠席（入院）時でもオンラインで授業を行ったり、パソコンやタブレットを使って視覚的な分かりやすさを高めたりする授業での取り組みが評価されているものと思われる。その反面、無回答が1名となっており、さらに取り組みの様子等について、ホームページ等での情報発信を丁寧に行えるとよい。
- 安心・安全についても高い評価を得ており、感染症対策や環境整備などの学校の対策に多くの保護者が満足していただいていることがうかがえる。
- 昨年度新設した「いじめ」の質問については、2名が無回答で、学校の取り組みについてさらに発信できるとよい。
- 今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、交流教育については間接交流が主となり、制作した作品の交換やビデオレターを使った形態となり、保護者の目に触れる機会が少なく、「他校との交流が増えてくるとよい。」とのコメントが寄せられたものと推測する。
- 自由記述では、本校への感謝を表す内容が多かった。また、送迎の際の駐車場についての御意見が寄せられ、校内でも検討・改善できるとよい。

イ おおるり分教室について

- 今年度も多くの保護者の方から回答を得ることができた。また、多くのコメントも寄せられ、コメントのすべてが感謝を表す内容であったことも特徴的である。
- 本校と同じように、全ての質問項目で概ね学校の取り組みを理解していただいている結果となった。
- ICTに関する質問項目において「ア よくあてはまる」の回答数が少なく、「エ あてはまらない」の回答も2名ではあるが寄せられた結果となった。病状に応じた個別的な学習において、活用状況について保護者がイメージをもちにくかったり、ICT機器の活用が難しい場合もあることからこのような結果になったと思われる。

ウ 教員アンケートについて

- 保護者アンケートと比較すると、「ア よくあてはまる」、「イ ややあてはまる」を含めると一部を除き100%を達成している。
- ICTとホームページ掲載については、教員の取り扱う機会に個人差があるが、「ア よくあてはまる」、「イ やや当てはまる」を含めると100%を達成し、昨年度より特に「ア よくあてはまる」が良い結果を得ている。教員一人一人が意欲的にスキルを身に付け、教育活動に活用している顕著な現れと言える。
- 児童生徒の気持ちに寄りそった教育活動については、「気持ちに寄りそった」の解釈について、児童生徒の実態等を把握し、十分共通理解したうえでの指導について確認できる場がもてるとよい。
- 保護者と教員の意識のずれを計るために教員アンケートを実施したが、結果として極端な意識のずれは生じておらず、概ね保護者と教員の理解が一致していることが分かった。

(3) 自己評価（学部・分掌部）

- 各学部、各分掌部ごとに、今年度の校務運営計画の中から一項目を抽出しての評価であるが、ほぼ全ての項目で「A 達成できた」、「B 概ね達成できた」となり、目標は概ね達成されているという結果となった。
- 教務部のタブレット型端末機の有効な利用方法については、「改善が必要」といった意見も一部あり、意識の高まりに乘じ効果的な活用の推進を図るとともに、さらに実践的な研修がもてるとよい。
- 学習指導部のICT機器を活用した学習指導の充実については、「改善が必要」といった意見も一部あり、授業での実践を積み重ねるとともに、学習指導の充実に向けて教科等部会等での定期的なふりかえり、検討ができるとよい。
- 健康安全指導部の評価の観点の一部が児童生徒の反省によるものであるが、反省に関する集計結果についての周知方法について、検討できるとよい。
- 渉外部の評価の観点の一部が保護者へのアンケートによるものであるが、「A 達成できた」、「B 概ね達成できた」合わせて98%で、良好な結果となっている。
- 進路・卒後支援部では、ホームページの更新も含め、保護者のニーズに応じた情報提供の在り方をさらに模索できるとよい。
- おおり分教室のリモート活用では、本人・保護者・地元校への働きかけをすすめるとともに、有効な活用に向け関係者間で共通理解が図れるとよい。

2 改善策

- アンケートの質問項目については、次年度の教育目標と重点目標に沿った内容への見直しを行いつつ、経年変化を捉えることで課題を見いだし次年度の改善策を打ち出していく必要がある。
- 昨年度から保護者と教員の意識の差を計ったが、保護者のニーズをとらえていくためにも今後も継続していく必要があると思われる。
- 新型コロナウイルス感染症への対策については、病弱教育を担う本校として、引き続き十分な対応が求められる。保護者からの「安心・安全な教育環境」の満足度が下がらないための教員の意識の再確認や「慣れ」の解消に努めていく必要がある。
- ICTを活用した学習指導や遠隔教育など、引き続き教員の実践的な研修や情報交換の機会を確保するとともに、ホームページ等の情報発信についてもさらに取り組みを充実させ、本校の教育活動について保護者が十分理解できるよう努めていきたい。